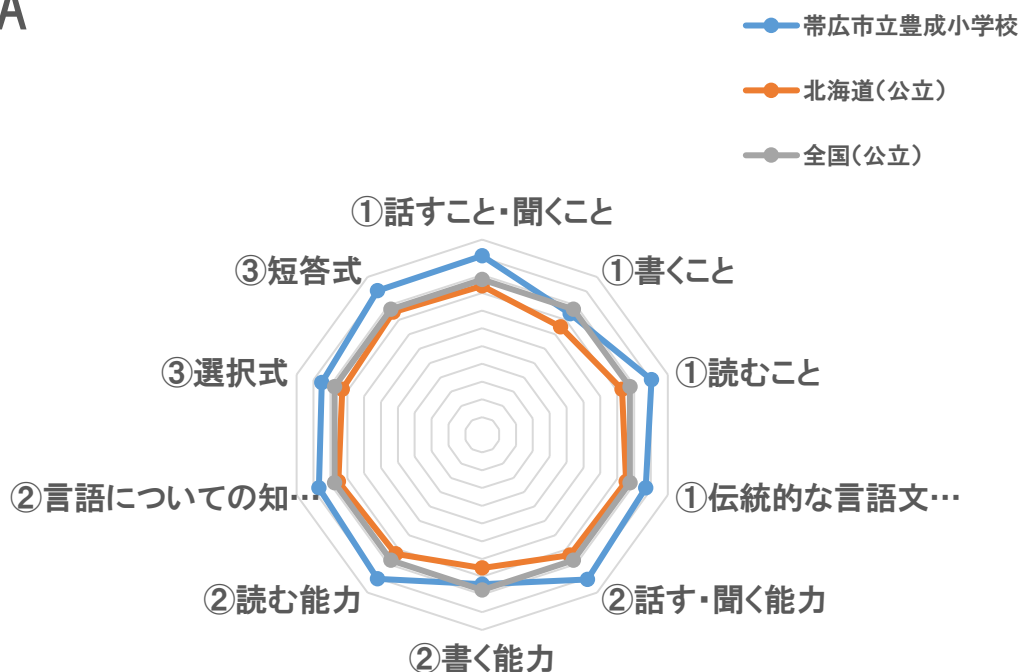
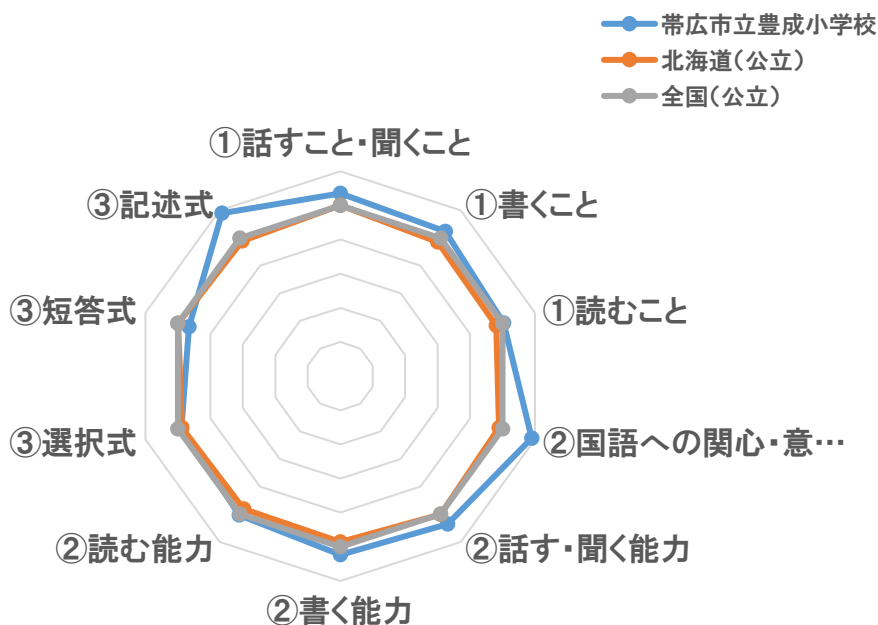


# 国語A



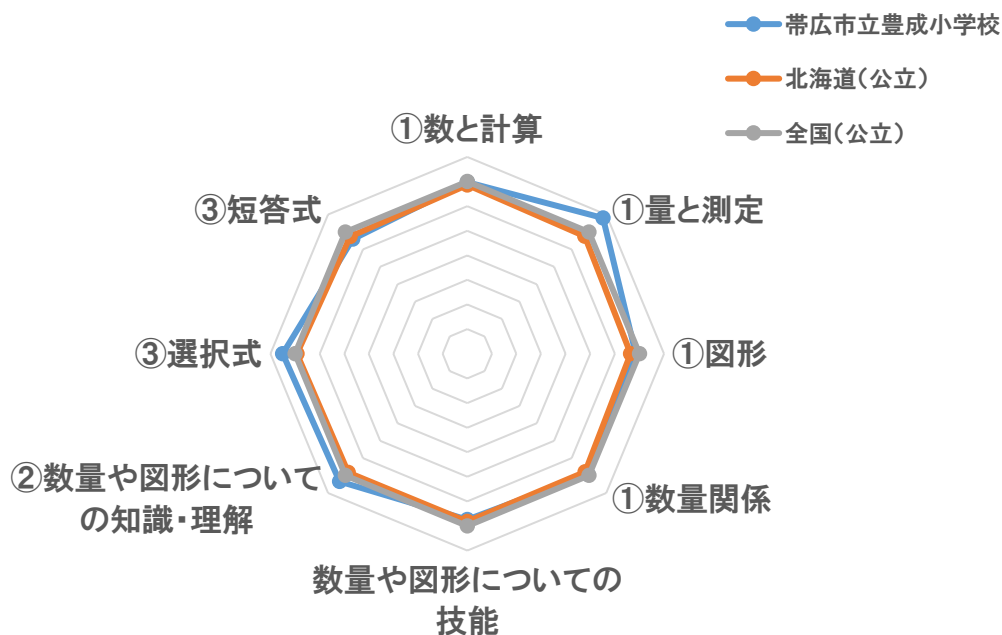
ほとんどの項目で全道、全国を大きく上回っており、大変良好だと言える。今まで校内研修で取り組んできた「話す・聞く力」と「作品を丸ごと読む力」が確実に身に付いていることを実感することができる結果となった。唯一全国を下回った「書くこと」も僅差であり、書く活動を軸とした交流学習や記述式の業者テストを積極的に取り入れた成果が出ているものと思われる。今後は、要約等、要旨を端的にまとめる活動を随所に取り入れ、書く能力の向上に努めていきたいと考える。

# 国語B



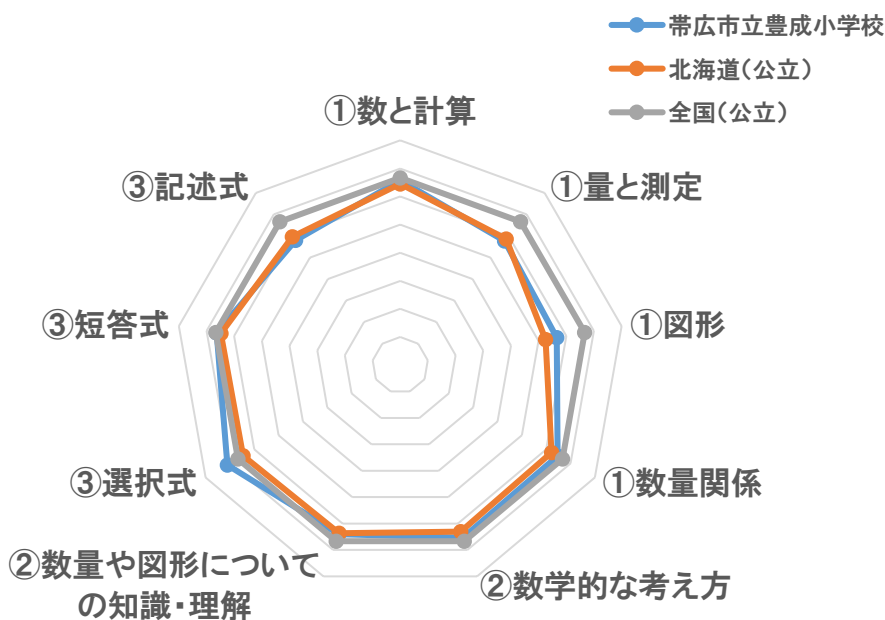
全ての項目で、ほぼ全国と同等の結果となり、特に「記述式」の問題は、良い結果となった。日常的に自分の考えを他者と比較したり、友達の文章から伝えたい事柄を正確に読み取って意見を述べたりする活動を取り入れている成果が表れていると思われる。また、「国語への関心・意欲」が高いのは、朝読書や地域のボランティアによる読み聞かせの活動等により、本や文章に親しむ習慣が身に付いてきたからだと考えられる。また、読書活動による想像力や発想力、集中力の伸びも国語科への意欲の向上に繋がっている。

# 算数A



全ての項目で、ほぼ全国と同等の結果となり、特に「量と測定」においては、しっかりとした定着が見られた。「わかる・楽しい授業」を目指し、具体物の提示や体験的な活動を多く取り入れ、経験と事象がしっかりと結び付くような授業展開を心掛けた成果が出ていると思われる。また、習熟度別学習やTTの計画的な活用も基礎基本の定着に効果的であったことは明らかである。

# 算数B



全項目において、ほぼ全国と差異はないが、図形分野に若干苦手傾向が伺える。日常的に立体にふれたり、動かしたりする経験は、授業の中でも大切にしているが、より日常生活に結び付けて考えられるような工夫と経験の積み重ねが必要だと考える。今後も算数の授業にこだわらず、様々な場面で既習事項を振り返る場面を設けることで、定着を図っていきたい。